

気がつけばもう師走

歳のせいでしょうか。と言うと、まだ若いのに、と言い返されそうですが、1年が経つのがすごく早く感じるようになってきました。今年も気がつけば12月号のコラムを書いています。

歳をとるにしたがって、人が感じる時間の経過が早くなる、とよく聞きます。その理由として挙げられるものに「ジャンナーの法則」があります。「主観的に記憶される時間の長さは、年齢と反比例的な関係にある」という仮説です。同じ1年であっても、10歳の子供にとっては人生の10分の1ですが、60歳の大人にとっては60分の1です。年齢に対する比が小さいほど（過去の）時間が短く感じられるので、加齢によって時間が早く過ぎるように感じる、というわけです。もっともらしい説で一理あるのですが、そんな単純なものではないような気がします。

代謝によるものだという説もあります。心的時計は、身体的代謝が活性化しているときに速く進み、逆に代謝が落ちると、遅くなるというものです。加齢により代謝が低下することで物理的時計の方が心的時計よりも速く進み、時間の経過を速く感じるようになるというものです。(注)

いずれにしても今年も残すところあと1か月となりました。私の場合は、57分の1でかなり足早に過ぎ去ってしまった1年ですが、一つ一つ思い起こせば、公私共々いろいろな出来事がありました。

公的には今年には大きな国際イベントがありました。4月末に開催されたG7香川・高松情報通信大臣会合と3回目の開催となった瀬戸内国際芸術祭2016です。G7会合では、主要7カ国とEUなどの代表団が高松に集まり、これからの情報通信技術の発展に関して貴重な合意がなされました。また、瀬戸内国際芸術祭では、多くの来場者で賑わい、外国人の割合が前回より10ポイント程度も増えました。高松の国際化が大きく進んだ印象を受ける1年だったと思います。

年は唯 黙々として 行くのみぞ

高浜 虚子

行く年の物理的時計は、黙々と進んでも、心的時計は歳相応にゆっくりと進めて行きたいものです。でもそうすると、気がつけばもう新年でしょうね。

(注) 時間感覚に関する記述は、「柏崎総合医療センターホームページ『院長の部屋』(2015年7月9日)」を参考にしました。